

ふるさと教育 取組事例

学校名	浜田市立国府小学校		
学年	主な教科等	主に関わる単元名	活用した教育資源 (ひと・もの・こと)
6	総合的な学習 の時間	「ふるさと浜田のSDGsを考えよう」	・浜田市の産業、文化の振興に携わっている人・地域コーディネーター
ねらい	<ul style="list-style-type: none"> ・ふるさと浜田の人口減少の現状を知り、課題を考える。 ・いろいろな人の話を聞き、浜田を元気にする方法を考え発信する。 		

1 取組の概要

(1) オリエンテーション

- ・6年生学年テーマ「SDGs」を「地域振興としてのSDGs」として考えよう。
- ・浜田市は人口がどんどん減少している現状を知り、そのことでのどのような問題、課題があるのか話し合おう。
- ・ふるさと浜田が、継続・発展するためにできることを自分たちでも考えよう。



(2) 浜田市の産業、文化の振興に携わっている人に出会って話を聞く。

①令和5年6月27日(火) 14:00~15:00

はまだふれあい食堂 細川 豪 様

- ・ふれあい食堂の立ち上げに至った経緯・コロナ禍のふれあい食堂
- ・運営にかかる経費の調達にかかる話 ・ふれあい食堂の今後の見通し

②令和5年7月7日(金) 13:35~14:35

ゲストハウス経営 齋藤 慎介 様

- ・地域おこし協力隊として1ターンの経緯
- ・古民家をゲストハウスにリノベートしたお話
- ・浜田市内3つのゲストハウスを経営するための工夫

③令和5年10月5日(木) 10:40~11:40

有限会社 平野屋 平野 真里香 様

- ・歴史のあるお店をどのような戦略で経営しているか
- ・地方発送やふるさと納税の返礼品のこと
- ・お茶の魅力 ・平野屋の今後の見通し

④令和5年10月11日(水) 14:20~15:20

浜田市役所観光交流課 石田 都 様

- ・神楽の魅力 ・舞姫社中(女性が舞い手の神楽)をしようと考えた理由
- ・浜田市の神楽の今後の見通し

⑤令和5年11月20日(月) 14:00~15:00

有限会社 岡村工務店 拝上 理恵 様

- ・キクラゲ栽培を手掛けたきっかけ ・レトルト商品の開発について
- ・ブランド化などの戦略について

⑥令和5年12月1日(金) 9:35~10:20

島根大学 医学部 久佐 洸陽(あさひ)様

- ・浜田市の地域医療の現状 ・SDGsの観点からの地域医療
- ・浜田市の地域医療の展望について



(3) 浜田を元気にするための提案をする

令和5年11月17日(金) 学習成果発表会

チームごとに調べたり考えたりしたことをプレゼンテーション資料にまとめ、全校児童や保護者、地域の方、ゲストティーチャーの方に向けて、発表した。

2 ふるさとの「ひと・もの・こと」をどのような力を付けるためにどのような意図をもって活用したか。

この単元で付けたい力

＜ふるさとへの愛着や誇り、貢献意欲の視点から＞

- 自分の住むまちへの関わり方を選択、判断する問題を解決するという過程をたどるばかりでなく、自分がいかに関わるか自分にとっての最善解、集団にとっての納得解を見つけようとする態度を養いたい。

＜学力育成の視点から＞

- 問題解決のプロセスを方法知として知る

問いの発見→課題設定→分析→結論→新たな問いの発見→・・・といった問題解決のプロセスを実際に体験することで、問題解決にあたってはこのようにアプローチするとよいということを学ばせたい。(やがては、自分で見つけた課題に自分なりのアプローチで繰り返し探究しようとする主体性のある学びの力へと繋げていきたい。)

3 児童・生徒に見られた変容(どのような力が身に付いたか等)

＜ふるさとへの愛着や誇り、貢献意欲の視点から＞

「持続可能な社会、浜田はどうか。」と問うたところから、児童は現状に向き合うこととなった。しかし、浜田の良さに魅かれて1ターンされた方やふるさとを元気にしようとして頑張っておられる方の話を聞き、勇気や元気をもらおうと同時に、物の見方や発想の仕方を学ぶことができた。

成果発表会での「浜田を元気にする提案」でも、「〇〇さんから教えてもらったこと」を紹介したり、さらに自分たちのアイデアを付け加えたりしながら、具体的な提案をすることができていた。

＜学力育成の視点から＞

毎回講師の方が行われるプレゼンをお手本として、成果発表会でグループごとにタブレットで作成したスライドを使ってプレゼンをすることができた。(情報収集・発信する力)

また、講師の方は一方的な講義ではなく、ともに現状や課題を共有したあと、児童のグループワークや協議の時間を設定された。そこでは大人・こどもの枠を超えて、出された意見を大切に賞賛したり、コメントしたりされた。児童は自分たちの考えを出すことの楽しさを味わい、進んで協議することができるようになった。回を追うごとに内容も深まってきた。

最終回の地域医療の現状を受けてのグループワークでは、「医療センターと地域の診療所のネットワークをしっかりと築くこと」「そのネットワークがあることを多くの人に知らせること」などのアイデアや意見が出てきた。(主体的・協働的に取り組む態度)

4 課題や今後の展望

講師の方のお話を聞くことは、学びも刺激も大きい。しかし、小学生にとっては聞きなれない用語や難しい内容もあった。講演の後、学級で振り返りながら、学級担任が補足説明をすることも必要であった。地域講師の方に来ていただくには、連絡・スケジュール調整・打合せなど大変な面もあるがたくさんの講師さんを紹介して下さったコーディネーターの存在は大きい。教師の思いや願い、学びのねらいを明確にして相談をしていくことが大切であると感じている。

今回は、校内発表会での発信で終わったが、さらに地域に発信したり、実践したりすることができればよい。そのためには、5年生からの持続可能な浜田をテーマに2年間を通した学習を組むことも考えていきたい。

